



聴覚に障害のある子どもへの指導・支援

授業での支援について【全教科共通】

【学習環境を整える】

- ・座席の見直し・・・教員の口形が見え、周りの様子も感じられる場所が好ましい。
(中央列・前から2番目あたりが理想。廊下側は雑音が多いこともある。)
- ・視覚的な情報の提示・・・授業のめあて、話のテーマ、キーワードなどを示す。
- ・児童生徒の発言の復唱・・・きき逃しの無いよう、発言を復唱する。
- ・傾聴態度の育成・・・静かになってから話し始める。話し手の顔を見て話をきく。相槌を打ちながらきく。



【話し合い】

- ・誰が話すのか分かるように、挙手など合図をしてから話し始める。
- ・話している内容が分かるように、ノートを見せながら発表したり、書記係がミニホワイトボードにメモをしたりしながら話を進める。
- ・補聴援助システム(ロジャーマイク等)を話し手が持って話す。



授業での支援について【国語科】

- ・音読では、どのように読むのか、誰から読み始めるのかをはっきりと伝える。
- ・誰が読んでいるのか分かるよう、読む人は起立する。
- ・どこを読んでいるのか分かるよう、電子黒板に教科書を表示し指差しをする。



授業での支援について【外国語活動・英語科】

- ・ヒントとなるようなイラストカードやフラッシュカードなどの視覚的教材を提示する。
- ・話の内容の予測ができるように、新出の英単語やキーワードを事前に伝えておく。
- ・正しい発音ができるよう、教科書の単語にフリガナを振っておく。
- ・表情や身振りを交えて話をする。
- ・口形をはっきり見せて話をする。
- ・リスニングの方法を本人と確認する・・・補聴援助システム(ロジャー)の活用、音源の近くできく など。



授業での支援について【音楽科】

○補聴器や人工内耳をつけて会話することができても、音程を正しくきき取ることは難しいこともあります。

- ・自分の音をききやすくするため、合唱・合奏の個人練習は、別室や廊下などで行う。
- ・合唱・合奏では、演奏の始まりや終わりなどのタイミングが視覚的に分かるように、指揮者を立てたり、合図となる他パートの動きを伝えておいたりする。

